公立大学法人
静岡文化芸術大学

碧い風

SUAC
広報誌

Vol.19
2024 秋号

「学び直し」のリアル

社会人大学院生クロストーク／
SUAC大学院生「わたしの研究テーマ」&大学院案内

新連載　SUAC研究の『いま』

// SUAC TOPICS //
「コメダ珈琲店 豆菓子パッケージ」に学生作品が採用
道具に触れて考える体験型公開講座開催
「トビタテ！留学JAPAN」派遣留学生に採択
オープンキャンパス2024開催

Featured topic
研究室訪問
若者の消費者行動
に着目して
デザイン学部 デザイン学科
中川 晃 准教授

SUAC大学院20周年

社会人大学院生「学び直し」のリアル

大学院生クロストーク

近年、社会人が新たな学びに挑戦する「学び直し」や「リカレント教育」が注目されています。
長期履修制度を活用し、働きながら学ぶ本学大学院生のお話を伺いました。
キャリアと学びを両立させる、リアルな声をお届けします。

濱田 翔 さん
デザイン研究科2年

杉山 美樹子 さん
文化政策研究科2年

学び直しのきっかけ

濱田：私は元々東京で暮らしていて、IT系の会社に勤めていました。妻が浜松に転職することになり、一家で移住を決めました。そのタイミングで自分も新しいことにチャレンジしてみたくなったんです。仕事でWEBサービスの企画を担当することが多いのですが、業務上の課題を以前から感じていて、それを解決するためにいつか学びたいとずっと思っていたんですよ。

杉山：私は外国から来た子どもたちに日本語を教える仕事をしています。子どもたちが日本にやって来る背景は様々でして、一人一人個別の対応をすることが多いんです。しかし、一対一では時間も手間もお金もかかってしまいますので、何か確立された教育プログラムがあるといいなと考えていました。そんな話を（所属するNPO法人の）理事長にしていたら、「大学院で勉強してみたら?」と言われて、それがきっかけでした。

—お二人とも仕事上の課題がきっかけだったのですね。

大学院に入学するまで

杉山：私は大学院の受験準備や指導教員の探し方を知らなかったので、まず調べるところから始めました。通学して研究ができる環境を優先して選び、SUACで言語を研究している教授を探しました。

濱田：私も通学できる環境を中心に検討しました。WEBを学ぶ上で、デザイン方面かエンジニアリング方面かで悩みました。WEBサービスの開発は大きく分けると、企画・デザイン・プログラミングの3つの領域があって、各領域の専門性が高いため、それぞれのプロフェッショナルによって分業して行われます。しかし、他の領域への理解が足りないとコミュニケーションが

次ページへ続く

contents

P.01 Pick Up Student
P.02-04 ［特集］社会人大学院生「学び直し」のリアル 大学院生クロストーク
P.05-06 SUAC大学院生「わたしの研究テーマ」& 大学院案内
P.07-08 SUAC TOPICS
P.09 SUAC研究の「いま」
P.10 研究室訪問（教員研究紹介Vol.11）中川 晃 准教授
P.11 気になる、となりの授業紹介／SUACさ・ん・ぽ
P.12 キャリア支援室より
P.13-14 新任教員紹介／同窓会だより

日・トルコ外交関係樹立100周年

「一念発起でトルコに留学！成長を実感」

—pick up student—

志賀 彩月さん

文化政策学部 文化政策学科3年
浜松市立高等学校出身

志賀さんが所属する文化政策学科は、「経営・政策・情報」の3つの分野を総合的に学ぶカリキュラム。幅広い分野を学べることが自分に合っていて、履修するすべての講義に興味深く取り組めているそうです。

コロナ禍で過ごした最後の高校生活。志賀さんがやり残したことは「なぎなた部」での大会が中止になったことでした。地元にあるSUACに進学したことをきっかけに、大学入学後も母校の部活に参加したり、道場に通ったりして稽古を継続。自分で課題を見つけながら鍛錬を重ね、その結果、国体に出場できる機会を得ることが出来ました。人生を通じて自分自身を鍛えられるのが武道の魅力、と語ります。

大学生活では「せっかくなら何かにチャレンジしたい！やってみたいことをやってみよう！」と一念発起し、2年次から留学を視野に考え始めた志賀さん。同じ目標を持つ友人と情報を収集し、留学先に決めたのがトルコでした。未知の世界を旅してみたいという気持ちでの挑戦。そのスタートは簡単なものでなく、入学手続きや語学準備には苦労したといいます。

友達とそれぞれの国の料理を持ち寄って楽しんだトルコでのクリスマス。友達と家族のようなひとときを過ごし嬉しかったそうです。▶

▲トルコから帰国直前のBBQ。志賀さんに会うために集まった友達に囲まれ、アットホームな空間に。「トルコに帰る場所ができてよかった」と志賀さん。

様々なハードルを乗り越え、いよいよ始まった留学生活。パワフルな話しぶりで学生を巻き込む先生の授業では、他の学生たちも積極的に質問や意見を出します。もともと人前で話すことが得意ではなかったという志賀さんも、多く用意されている英語でのプレゼンテーションの機会を経験していくことで、自身の成長を実感。トルコで出会った世界各国の友人たちとは様々なイベントに参加したり、ショートトリップに出かけたりと、留学生活を満喫。自分の意見を素直に表現する友人たちの姿勢に学ぶところが多かったといいます。

新しい世界に飛び出して、さらなる成長をした志賀さん。英語力の向上を目指しながら、トルコ語ももっと勉強したいと話します。留学で得た積極性やチャレンジしていくパワーを糧に、今後もSUACでの学生生活も楽しみます。

社会人経験が理解を深め学びが実践に活きる

うまくいかなかったり、円滑に進まないことがあります。私は企画担当として、自分の領域を広げたいというのが課題でした。自分の中でより強化したいのはデザイン領域だったので、SUACを選びました。

杉山：私は長らく勉強から離れていたので、何もかもが手探りでした。自分の研究テーマを決めるために、いくつか論文を探して…論文の探し方を知るとか、本当にそんなところから(笑)。私の研究テーマは何だろう、先生の研究室で学ぶためにはどんなテーマがいいだろう、と考えながら半年間くらい論文を読み漁って研究計画書を作っていきました。

濵田：自身の研究テーマを追求するのももちろんですが、指導を希望する教授の研究内容に近づけていくというようなところも、ちょっとありますよね。

―大学院入学前から研究テーマを決めるのですね。受験勉強もしましたか？

杉山：私はキャリアアップ制度を利用し、英語と専門の試験が免除され、口頭試問のみだったので、受験生のような感じではなかったですね。

濵田：私もスコア提示のためにTOEICを受けたくらいで、いわゆる受験勉強はしませんでした。入試当日は不安な面もありましたが、これまでの実務経験に関連する部分があったため、無事に乗り切ることができました。

杉山：濵田さんの社会人経験が活きたのですね。大学院によって社会人の入試制度もいろいろあるようですし、これまでの経験を活かせることもありますよね。

社会人が大学院で学ぶメリット

杉山：自分の大学時代は専攻内容を深く掘り下げるまでの勉強はしていなかったので、いつか勉強し直したいと思っていました。いざ大学院に入学してみると、「大学院は自ら研究を深めていく所だ」と学部生との違いを痛感しました。自分で探し求めて、自分の見解を相手に伝える…受け身では学び取れないんですね。授業を受けて思ったのは、社会に関わる内容が多いということでした。学術的な理論が自分の経験とつながっていたり…社会人にオススメの面白い授業がたくさんあります。

濵田：はい、わかります。SUACは日本有数のものづくり企業が集まる浜松にあるのも、良いところの一つだと思います。産学連携が盛んですし、企業で経験を積まれた先生がいらっしゃったり、最先端の知識や現場を知る機会が多くあります。そうした方達と直接話ができるのは貴重な環境だと思います。仕事ですごい方と知り合う機会もありますが、仕事上は自分もプロとして接しなければいけません。立場上簡単に聞けないことも多いですよね。でも、大学院生という立場だと気軽に質問や相談ができるのは、社会人大学院生のメリットですね。

文化政策研究科2年

杉山 美樹子 さん

静岡県出身。外国人の子どもの日本語教育に携わる。趣味はフラメンコ。進学準備で一時中断していたが、勉強疲れを払拭するために再開。早朝に無心で行う洗車もリフレッシュの一つ。汚れが綺麗に落ちていくのが爽快。

デザイン研究科2年

濵田 翔 さん

東京都出身。WEB関係の仕事に従事。子どもと電車で出掛けたことで、新たな視点、旅の魅力を再発見。子どもと一緒に趣味の“学び直し”作戦。次の目標は乗馬。ワイン資格にも興味があり、浜松のお店も鋭意開拓中。

杉山：経験があるから出てくる疑問もありますしね。私の仕事の話になりますが、子どもたちが読書するときに、文字を読む速度を上げたほうが意味を理解する力が付いたりします。ゆっくり読むと、頭の中で文字を音に変換する作業を行ってしまいます。速く読むことで、言葉の意味の理解に意識が向く…あぁ、これが「本を読む」ってことなんだ、「読解力」はこうやって身に付くんだと気付き、大学院での言語学の学びと、仕事の現場と、自分の体験と、様々なことが一気につながりました。社会人大学院生だと、そうした学びをすぐ実践に移せるメリットもありますね。実践してちょっと違うなと思えば、改善を加えてやり方を変えてみたり、先生に相談することもできます。

―学びと社会人経験の相乗効果ですね。

仕事と学びの両立に必要なもの

杉山：私はフルタイムで働いていないので、勉強の時間は取りやすい方かもしれません。でも、課題の提出や次の授業までに本を読まないといけないなど、いつの間にかやるべきことが増えてくるんですよね…。順番に発表がある授業では、人数が少ないとすぐ順番が回ってきたり(笑)。土日をフル活用してやりくりしています。

濵田：ありますね(笑)。私は今、育児中のため、いつ課題をやるか時間の確保が問題です。子どもが寝ている時間などを活用して課題に取り組んでいます。時々実家の親に応援を頼んだりして、周囲の協力を得て成り立っています。

杉山：家族の理解は大事ですよね。当初は家族に驚かれましたが、今は家族の協力があって、大学院に通うことができています。

濵田：職場の理解も必須ですね。私は在学中に転職したのですが、転職時に会社とよく話し合いました。会社によっては在職したまま大学院で学ぶことができる制度を設けている所もあるようなので、大学院に興味のある方はご自身の会社の制度を調べてみると良いと思います。

大学院修了後はこんな自分に

―修了後のキャリアビジョンについて教えてください。

濵田：修了がゴールという感覚はあまりないのですが、当初抱えていた課題がある程度解消され、一歩先に進んだ状態になると期待しています。WEBサービスの開発過程が、解像度の高い見え方になるイメージです。そして、クリアに見えてきたところで、きっと新たな課題が生まれるとも想像しています。各領域の専門性が高くなればなるほど融合するのが難しくなりますし、高度化すればするほど企画担当として高いマネジメント力が求められます。関係者間で円滑にコミュニケーションを取れる仕組みやサービスを開発できたりしたらいいですね。それをどういう形で実現できるかはまだまだ固まっていないので、抽象的ではありますが。

杉山：私はとても学ぶことがおもしろくなっています。家族はあと1年と思っていますが、もっと学びを深めたいと思うので、どうしようかなと今はまだ迷っています。大学院で新しい人やコトに出会い、いろいろな刺激をもらって、研ぎ澄まされてきた感じです。「自分はここに行きたかったんだな」という道がどんどん拓けてきたような。私がこれから、今までにない斬新なものを作れるわけではありませんが、これまでの多くの方の研究を少しずつ組み合わせながら、言語教育の現場で足りていないところを補う提案や、「こうするとちょっと良くなるよ」というのを少しずつ広めていけたらいいなと思っています。

SUAC大学院生

「わたしの研究テーマ」

文化政策研究科とデザイン研究科というユニークな構成のSUAC大学院。
ここで学ぶ大学院生の研究テーマも様々で大変個性的です。本学も院生の皆さんの研究をサポートしていきます。

■ **小林 遥伽**〈こばやし はるか〉
デザイン研究科2年

触れたくなる
テキスタイル素材による
アートワーク

■ **戴 周杰**〈たい しゅうき〉
文化政策研究科2年（長期履修制度）／
文化施設勤務

持続可能な
映画祭に関する研究
～山形国際ドキュメンタリー
映画祭を事例にして～

■ **森田 奈那**〈もりた なな〉
デザイン研究科2年

地域固有の風土と
空間構成に関する研究
ー防災機能をもった
地域拠点づくりについてー

■ **中谷 宏**〈なかや ひろし〉
文化政策研究科2年（長期履修制度）／
一般企業勤務

日本におけるクラシック音楽祭
の受容から持続に至るオーセン
ティシティー形成とその変化
～木曽音楽祭を事例として～

■ **岩根 瞳子**〈いわね とうこ〉
デザイン研究科1年

日常生活と同時進行される
防災と避難所生活について、
建築的な観点での研究

■ **島屋 拓海**〈しまや たくみ〉
デザイン研究科2年

アプローチ空間に関する研究
～交通ターミナル周辺地域に
おける空間計画～

■ **正保 圭一**〈しょうほ けいいち〉
デザイン研究科1年

建築への風景の
取り込み方に関する空間的
デザインアプローチの研究

■ **上田 真由佳**〈うえだ まゆか〉
デザイン研究科2年

シアー素材の
特長を生かした染色作品

大学院修士論文・研究は、「静岡文化芸術大学学術リポジトリ」で閲覧できます。
アクセスは右記URLまたは二次元コードから ▸▸▸ https://suac.repo.nii.ac.jp/

SUAC 大学院案内

定員 10名

文化政策研究科

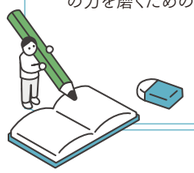
文化政策研究科では、専門的な文献研究だけでなく、実践の場でのフィールドワークや調査を重視し、文化・芸術のもつ可能性を可視化・具体化できる人材を育成していきます。院生は以下の3つの研究専門領域から1つを選び、領域横断的で学際的な研究を教員の指導のもと展開していきます。

- アーツアンドカルチュラルマネジメント
- 地域政策マネジメント
- グローカルスタディーズ

定員 10名

デザイン研究科

高度情報化、循環型社会への転換、そして高齢化の進展など、大きく変化する時代環境にあって、デザインに要請される内容は多様化し、デザイナーには専門能力が幅広く求められるようになっています。
デザイン研究科では、そのような社会的要請に応え、これまでに身に付けたデザインあるいはその他の分野の専門性をベースにして、より高度なデザインの力を磨くための実践的な研究の場を提供します。



入試日程	出願期間	試験日
学内推薦	5月中旬	6月上旬
A日程	8月中旬	9月中旬
B日程	1月上旬	2月上旬

※出願の前に事前相談（必須）があります。
※時期は年度ごとに変更される場合があります。
※試験教科・科目、試験方法等、詳細な入試情報はWebサイト等でご確認ください。

長期履修制度

在職したままキャリアアップを目指す人に、学ぶ機会を提供する目的で設けている制度。
申請により許可された場合に対象となります。

（1）対象者
①職業を有している者　②その他長期履修が必要となる相当の理由がある者

（2）期間
入学から3年間 ※長期履修期間は短縮を含め、変更することはできません。

（3）授業料
年額357,200 円（3年間の授業料が、長期履修制度を利用しない学生の2年間分の授業料と、同額になります）

（4）申請時期
原則として入学手続き時（ただし、1年時での申請も可能）

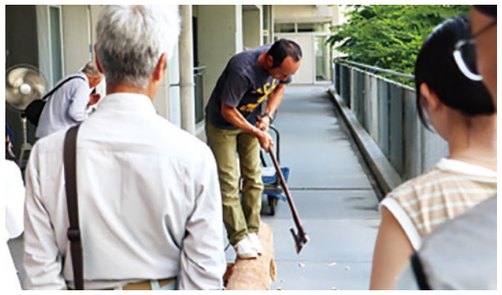
詳細は「大学院学生募集要項」をご確認ください。

SUAC TOPICS

TOPIC 01 「コメダ珈琲店 豆菓子パッケージ」に学生作品が採用！

全国に968店舗を展開する「コメダ珈琲店」。全国の美術・芸術大学、専門学校に通う学生を対象にした「豆菓子パッケージデザイン」公募により、応募作品数199点の中から、大平乃与莉さん（デザイン学部4年）の作品がグランプリを受賞しました。作品はパッケージ商品化され、2024年2月中旬より、全国の店舗で提供が始まっています。制作作品は年間4種類（春夏秋冬）のパッケージで、季節に応じたパッケージが展開されます。翌年2月中旬まで大平さんデザインのパッケージが提供されています。

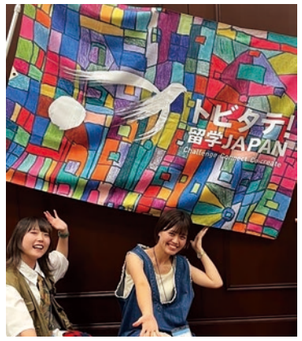
TOPIC 02 道具を見て触れて考える「ものづくり文化」公開講座「道具から『ものづくり』『人づくり』を考える」を開催



日本の文化の中で継承されてきた「ものづくり文化」と大地の恵み「素材」について学び、文化の継承と新たな創造へ繋げることを目的として、2018年度から開催している「匠公開講座」。今年度は「ものづくり文化」の原点ともいえる「道具」を起点に、「ものづくりと人づくり」を多角的に捉え、実際に道具に触れることで身体そのものでも考えを深めました。
講師の水野日出男さんら大工の皆さんと山口貴一特任助手が、「道具に触れる」をテーマに、かんなや鑿（のみ）などの実演や受講者が道具を見て触れることのできる体験講座を実施。受講者からは、「様々な分野や立場からの視点で道具を見つめることができて、有意義な時間だった」「大工道具に実際に触れ、体験することができて興味深かった」「道具の多様性に感動した」などの感想をいただきました。

イベントレポート全文はこちら ▶

TOPIC 03 「トビタテ！留学JAPAN 新・日本代表プログラム」第16期派遣留学生に採択



文部科学省が主催する「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN 新・日本代表プログラム」の第16期派遣留学生壮行会が文部科学省で開催され、本学から採択された学生2名が参加しました。
本制度は、文部科学省を中心に民間企業・団体が協働となって取り組んでいる海外留学支援制度。「新・日本代表プログラム」は、「社会にイノベーションを起こすグローバル探究リーダー」（高校生等）や「自ら社会に変革を起こしていくグローバルリーダー」（大学生等）として、日本の未来を創る人材を育成する新たなプログラムで、留学プランを自分で設計できることも特徴です。今年度は、全国で約270人の派遣留学生が採択され、多数の応募者の中、本学からも学生2人が採択されました。本学の採択学生は、アイルランドとオーストラリアに派遣され、それぞれの目標に取り組みます。

TOPIC 04 「オープンキャンパス2024」を開催

8月3日～4日の2日間にかけて、「オープンキャンパス2024」を開催しました。
高校生やご家族の方など延べ3,253名が来場し、本学の学びや学生の活動について知っていただく機会となりました。
今回のオープンキャンパスで使用したメインビジュアル（チラシ、ポスター）は、学内公募により髙橋優衣さん（デザイン学科3年）の作品が採用されました。

▲ 学科特別企画

▲ 在学生とのコミュニケーション

▲ 学生作品の展示

▲ 工房見学ツアー

▲ 学生活動の紹介

▲ 事務局相談ブース

SUAC 公式サイト

Webサイトでも本学の教育・研究や
在学生・卒業生の活躍など、
トピックスをご紹介しています。
https://www.suac.ac.jp/topics/2024/

SUAC 公式X（旧Twitter）

公式X（旧Twitter）アカウントでは、
日々の学内での出来事や
イベントなどをご紹介しています。
@suac_official

［研究分野］
空間デザイン/
デザイン経営

「若者の消費者行動」に着目して

中川 晃 准教授　デザイン学部 デザイン学科

Profile

東京都出身。東京藝術大学美術学部建築科を卒業後、日本放送協会（NHK）で番組制作、㈱オリエンタルランドでテーマパーク設計を担当。 2022年より現職。博士（芸術）。授業では「デザインマネジメント」「デザイン思考」などを担当 。

□建築家への思い

幼少期は人気アニメのキャラクター消しゴムで遊んだり、プロ野球のテレビ中継を毎晩見てる普通の子どもでした。中でもブロック遊びを特に好み、建物をブロックで製作するだけでなく、そこに市販のモーターを取り付けることでエレベーター機能を実装するなど機械模型にメカを組み込むといった事をしていました。今振り返ると、ブロックの「組み合わせて自由な形態を創る」といった遊びから造形や機能、構造、色彩計画といった要素を身につけていったのかもしれません。

高校生の時に建築家の安藤忠雄氏を知り、彼の生き方、建築に関心を持ちました。この頃から「建築家」になりたいと強く思うようになり、工学部ではなく、意匠系の建築が学べる東京藝術大学への進学を密かに計画しました。両親には大手予備校に通う名目で学費の提供を受けましたが、実はこの予備校の「美大コース」に通っていることが後に明らかとなり、大目玉を食らったのは今では笑い話です。

□人を幸せにする都市計画 ～エンターテインメントの空間デザイン

東京藝術大学にて建築を学ぶ傍ら、広告制作の個人事務所でアルバイトに取り組みました。事務所には多くの資料があり、ウォルト・ディズニーがテーマパークを建設する著書に出会います。その中では来場者に非日常的な空間を体験する事で幸せになってもらう思いや仕掛けが多く記されていました。空間に多大な可能性を感じ、このことが自身が空間デザインの仕事に就くきっかけとなりました。大学卒業時は就職氷河期で日本のディズニーランドを運営するオリエンタルランドへの就職が叶わず、エンターテインメントの空間デザインを手掛けることの出来るNHKに就職しました。番組制作局映像デザイン部に配属され、歌番組、ドラマ、報道番組と200以上の番組を担当しました。

▲ NHK「天才てれびくん」リハーサルの風景

□視野の広がり、研究者の道へ

20代はNHKで多様な番組のアートディレクションや空間デザインを手がけ、その後、オリエンタルランドに転職し、多くのエンターテインメントショーやパークの設計等に携わりました。そして、30代終盤に自身をアップデートさせたく、経営学を大学院にて学びます。大学院では技術や組織、プロセス等からイノベーションをいかに起こすかといった事を多様な多業種の学友と議論し続けました。クリエイティブとビジネスの両面から様々な事象のメカニズムを解明する中で、次第に教育・研究に携わりたいと考えるようになり、大学教員の道に転身しました。

□研究テーマ「若者と空間、空間とコンテンツ」

舞台芸術や空間演出、空間デザインを学生たちに指導する一方、研究者としては「若者の消費者行動」に着目しています。「推し活」に代表されるよう、若者達の消費者行動は他世代とは異なる点が多く、中でもアニメや音楽コンテンツにおける行動は特異的です。その若者達の消費者行動のメカニズム解明を社会学、商学、芸術学の複合的観点から俯瞰して研究に取り組んでいます。

学生達には幅広い経験をしてもらいたいと考えています。自身がそうだったよう、経験が無駄になる事は無く、その経験は人生のどこかで必ず役に立つ時が来ます。何事にも興味を抱き、「やってみたい！」という直感を大切にして挑戦し続けてほしいと思います。

中川先生が選ぶ一冊

「 知の編集工学 」

著：松岡正剛

世の中のありとあらゆる情報を自分なりに選択し、結び付け、再構成し、より良いものへ組み替える力が養われます。学生の皆さんの物事の考え方の指針となるオススメの一冊です。

新連載

SUAC研究の「いま」
Research Introduction

センター長あいさつ

文化・芸術研究センター長
礒村 克郎

本学文化・芸術研究センターは両学部連携のもと、文化芸術に関する専門的研究成果を広く学内外に発信するとともに、国際社会や地域社会との幅広い交流及び連携を図ることを目的としています。

これまで、研究成果を中心としたセンターの活動報告は文化・芸術研究センターだより「文化と芸術」を発行して来ましたが、より多くの方に知って頂く目的で広報誌「碧い風」で発信し、「文化と芸術」バックナンバーをアーカイブ化することにしました。

本学では、教員特別研究や、外部資金を活用した研究助成寄附金による研究、科学研究費助成事業による研究が日々行われています。このコーナーでその研究内容を皆さんに分かりやすく紹介していきます。

ニュースレター「文化と芸術」のバックナンバーはコチラから ▶▶▶

https://www.suac.ac.jp/archives/data/?tag=39

研究紹介 01

静岡県の歴史的建造物の構造性能評価に関する研究

■デザイン学部 デザイン学科　教授／岩崎敏之（研究代表者）
■デザイン学部 デザイン学科　准教授／新妻淳子　■文化政策学部 国際文化学科　教授／西田かほる

「異なる〝ことば〟を使うメンバーが対話する。」これが本研究の方法の柱です。共同研究者の新妻淳子准教授は伝統建築、西田かほる教授は近世史、岩崎は建築構造学がそれぞれの専門領域です。

対象となった静岡浅間神社の境内に存在する諸社殿は、安永・天明の大火の後、文化元年（1804）から60年余りをかけて、徳川家光により寛永期造営の姿に再建されたものです。破損奉行のもとに置かれた破損方のうち、当直の与力・同心が日々の普請状況を書き記したものが、慶応3年（1867）までの53年分60冊の『御再建場所日記』として残っています。これらの記録から、静岡浅間神社の社殿は、大きな地震や台風を経験しつつも、大きな被害に至ることはなかったことが確認できました。たとえば嘉永7年（1854）11月4日の安政東海地震の際の記録からは、そう遠くない場所にある久能山東照宮や駿府城においては大きな被害があったにも関わらず静岡浅間神社においては軽微な被害しかなかったことも分かります。

現在、静岡浅間神社は耐震診断を行なって補強の検討をして修理工事が進められています。耐震診断は建造物そのものや地震波を数値モデル化した上で工学的な知見に基づいて行われます。我々は、造営以降150年以上経つ建造物が大地震を経験した際の被害の記録も耐震性の判断材料にすべきであると考えました。

静岡浅間神社所蔵『御再建場所日記』

西田教授は『御再建場所日記』そのものを、新妻准教授は歴史的建造物の図面や日記にある建造物に関する記述内容を読み解くことができます。岩崎は耐震診断の技術的な中身を把握することができます。このように専門性の異なる3名が扱う〝ことば〟はまったく異なります。西田教授は建築構造学の専門用語についてまったく意味がわからないのと同様に、岩崎は筆で書かれた日記の文章をまったく読めません。新妻准教授が扇の要となってその仲立ちをする形で、異なる分野の研究者の対話によって本研究は進められました。横のつながりを生みやすい本学の環境のありがたさを共同研究者一同、感じています。

令和6年度【研究成果発表会のご案内】

教員特別研究で実施した研究成果を、地域や市民の皆様などに広く発表し地域に還元することを目的として研究成果発表会を開催します。

日時 10月31日（木） 14:40～18:00
場所 西棟ギャラリー
発表者 6名
入退室自由　YouTube配信実施　公共交通機関や近隣の駐車場をご利用ください
公式サイトTOP

気になる、となりの

授業紹介

国際文化学科専門科目

フェアトレード論

担当

武田 淳准教授

持続可能な茶産業に向けて

静岡文化芸術大学は2018年2月に国内初の「フェアトレード大学」認定を受け、それ以降も認定更新しながら、学内一丸となってフェアトレード推進活動に取り組んでいます。国際文化学科では、フェアトレードに特化した授業「フェアトレード論」を開講。地域の課題解決のための手段としてのフェアトレードだけでなく、実践活動を意識した企画・評価手法についても学びます。

静岡県掛川市の職員を招いた講義では、掛川市が取り組む「掛川茶フェアトレード」の取り組みがテーマ。日照時間が長い掛川のお茶は、渋みが強いのが特徴です。昭和30年前後に茶業関係者が一丸となって、「深蒸し茶」の研究をおこない、掛川茶ならではの深蒸し茶が生まれました。昨今ではお茶の健康効能も注目され、海外でも人気があります。

一方で、一世帯当たりのリーフ緑茶（急須で淹れて飲む茶葉）購入量は、約40年で2分の1に減少。ペットボトル緑茶ドリンクの登場を機に、急須を使わない手軽な緑茶ドリンクを選択する傾向が増加しました。それにともない、茶葉の価格は年々下落し、収入減少が要因となり経営を終了する茶生産者も増えています。生産者の後継者不足も顕著な課題です。

このような課題を抱える中、掛川市は「掛川茶未来創造プロジェクト（掛川市茶振興計画）」を2022年に策定。茶の生産者と茶商社が対等な立場で事前調整し、売り先を明確にした計画生産で相場に左右されない取引を目指す「パートナーシップによる計画生産」を推進しています。これにより生産されたお茶を「茶業版フェアトレード品」として認証し、消費者のエシカル消費や選択購入を促進していきます。掛川市の茶産業をはじめとした国内の第一次産業を持続可能にしていくために、行政や産業だけでなく、消費者である私たちも心掛けるべきことを考えるきっかけとなる講義でした。

授業レポート
全文はこちら

SUAC さ・ん・ぽ

Hamamatsu city 浜松建築探訪編

浜松市内や大学近辺など学生が訪れる場所やお気に入りスポットをご紹介します。

「浜松市茶室 松韻亭」

設計：谷口吉生　1997（平成9）年

浜松城公園周辺を散歩中にひっそりと建つ茶室を発見。主屋のほかに数寄屋造りの茶室や日本庭園もあって、ゆったりと過ごせる空間でした。

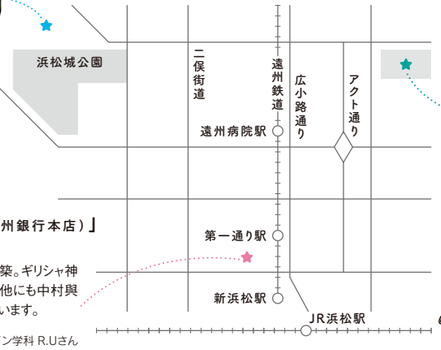
文化政策学科 A.Yさん

「静岡銀行浜松営業部（旧遠州銀行本店）」

設計：中村與資平　1928（昭和3）年

浜松中心街を歩いていたら突然現れた近代建築。ギリシャ神殿風の外観に目を引かれました。浜松市内には他にも中村與資平の建築があると知って、出かけてみたいと思います。

デザイン学科 R.Uさん



「静岡文化芸術大学」

設計：坂倉建築研究所　2000（平成12）年

ゆるやかな起伏がある屋上が特徴的なSUACのキャンパス。季節や時間と共に移り変わるキャンパスの風景が気に入っています。

国際文化学科 R.Tさん

キャリア支援室より

Career Support Office

キャリア支援室では、最新の動向を注視しながら、近隣大学や地元自治体、支援団体とも連携し、学生一人ひとりの志望や活動状況に合わせてのアドバイスや求人情報の提供等きめ細やかな支援を行っていきます。

2023年度卒業生・21期生

就職状況報告

全体の就職率は96.2％となりました。コロナ禍による企業の採用抑制の影響も薄れ、最終的に昨年度とほぼ同じ数字となっています。

業種は、文化政策学部ではサービス（28％）小売（17％）製造（14％）公務（13％）が、デザイン学部では製造（38％）サービス（29％）小売（14％）建設業（8％）が主な就職先となります。

職種は、文化政策学部では販売（39％）事務（38％）サービス職（9％）情報処理（5％）が、デザイン学部ではデザイン関連職（デザイナー、設計職等　54％）が中心となっています。

就職した地域は、東海地方51％、関東地方37％、近畿地方5％となっています。

2024年度卒業予定者の就職活動は、売り手市場の状況を反映し、昨年度同様のペースで現在次第に結果を出しつつあるところです。

2023年度卒業者：就職状況（2024年3月31日現在）　（人、％）

	卒業者	就職希望者	就職者	就職率
文化政策学部	220	198	195	98.5
デザイン学部	111	92	84	91.3
合　計	331	290	279	96.2

主な就職先・進学先

文化政策学部

［就職先］（株）内田洋行ITソリューションズ、（株）エイチ・アイ・エス、（株）杏林堂薬局、静岡県教育委員会、静岡県庁、静銀モーゲージサービス（株）、（株）秀英予備校、（株）スクウェア・エニックス、スズキ（株）、（株）ZOZO、中部（株）、東京海上日動火災保険（株）、東武トップツアーズ（株）、（公財）豊田市文化振興財団、（株）日テレ アックスオン、浜松磐田信用金庫、浜松市役所、ヤマハ発動機（株）、（株）USEN-NEXT HOLDINGS、（株）ラグーナテンボス、ローランド ディー.ジー.（株）

［進学先］静岡文化芸術大学大学院、愛媛大学大学院

デザイン学部

［就職先］（株）一条工務店、（株）京都ホテル、（株）サマンサタバサジャパンリミテッド、（株）GKグラフィックス、（株）シミズオクト、スズキ（株）、（株）スペース、ダイハツ工業（株）、（株）ナナミ、（株）日産オートモーティブテクノロジー、日本国土開発（株）、パナソニック（株）、ハマニ化成（株）、浜松ホトニクス（株）、飛騨産業（株）、（株）ブシロード、山梨県南部町役場、UUUM（株）、（株）良品計画

［進学先］静岡文化芸術大学大学院、東京都立大学大学院

NHK大学セミナー『プロフェッショナル仕事の流儀』大学生応援塾

7月に本学にて、NHK『プロフェッショナル仕事の流儀』大学生応援塾のセミナーが開催されました。過去、全国9大学で行われてきたセミナーで、記念すべき10校目、県内でも初の開催です。NHK静岡放送局と連携し、ディレクターの方の事前取材、学生への事前アンケートを行い、当日は多くの学生・教職員が参加しました。学生から寄せられた質問や切実な悩みに対して、ディレクターの方が真摯に回答してくださり、多くの学生はメモをとりながら聞き入っていました。また、番組の関連した回の映像も流され、学生・教職員ともにその迫力に釘付けになり、涙を拭う参加者も見られました。

学生にとっては今後のキャリアを考える良い機会となり、参加者全員にとって得難い経験となったセミナーでした。

3年生との個人面談

昨年同様、6月から7月にかけて、キャリア支援室職員が3年生と個人面談を実施しました。

志望する進路（業種、職種、勤務地等）や就職活動に向けての準備状況等を確認し、目指す方向に応じた活動のポイントを説明したり、学生からの質問に答えたりしました。

元々は夏休み明けに行っていた面談ですが、ここ3年ほどは、就職活動の早期化に対応し、学生が夏休みを有効活用できるよう、時期を早めて行っています。本格化してくる就職活動において、3年生がキャリア支援室を活用し、悩んだ際には気軽に相談できる場として利用できるよう努めていきます。

ご意見・ご感想をお寄せください

広報誌に関する**アンケートにご回答いただいた方の中から**
抽選で3名様に大学ノベルティグッズを**プレゼント**します。

応募方法

2024年12月1日(日)までに、二次元コードより
回答アンケートフォームにアクセスし、
回答してください。

コチラから
アクセス

※当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

静岡文化芸術大学同窓会だより

大学への寄付

学生の勉学環境の整備や課外活動の推進に寄与するため、同窓会から大学へ300万円の寄付を実施しました。来年以降も3年間の寄付を予定しています。大学のますますの発展のために同窓会としての役割を果たしていきたいと考えています。

碧風祭について

今年度の碧風祭は、11月3日(日)、11月4日(月・振替休日)に開催されます。昨年もたくさんの卒業生にご来場いただきました。ぜひ、今年もご来場ください。(同窓会の参画については、別途同窓生の皆様にご案内します)

今後の活動

広報誌「碧い風」の送付は、今年度で終了を予定しています。25周年にむけて、大学・同窓会情報の発信について、検討中です。

＼ 同窓会の活動に参加してみたい卒業生を募集しています。また、日頃のご活躍もぜひお知らせください。 ／

コチラ ▶▶▶ 静岡文化芸術大学同窓会 E-mailアドレス：dousou@suac.ac.jp

静岡文化芸術大学基金
（教育研究支援・修学支援事業）
寄附者ご芳名

2024年1月1日から
2024年7月31日まで

ご寄附を頂戴した方々のご厚意に心から感謝を申し上げますとともに、謹んでご芳名を掲載させていただきます。今後、学生が行う海外留学の支援等に充てさせていただきます。皆様には引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

寄附金額　10,351,000円　（内訳:教育研究支援89,000円、修学支援事業10,262,000円）

寄附者ご芳名
（五十音順、敬称略）【個人】

大塚晃司　齋藤丈　清水唱平　髙橋玲子　直井小百合　中里岳夫　藤川智子
松本賢太郎　望月良江　山田智也

※ご芳名の掲載を希望されなかった方（15名）を除いて掲載しております

寄附者ご芳名
（五十音順、敬称略）【法人】

遠州信用金庫　ユニファースト株式会社

基金について

新任教員紹介　2024. NEW FACULTY

文化政策学部国際文化学科 准教授
国際開発、地域研究（アジア）
石坂 貴美

青年海外協力隊への参加、国際NGO勤務、国際協力コンサルタント（個人）を通じて国際協力に関わってきました。途上国のセーフティ・ネット構築に向けて研究・実践に取り組んでいます。
本学では、「国際協力論」や「NPO／NGO論」を担当します。学生のみなさんと国内外の社会課題解決に向けて一緒に探究を続けていきたいと思います。よろしくお願いします。

文化政策学部芸術文化学科 講師
演劇学、西洋演劇史、フランス語圏諸国の演劇・舞台芸術
田ノ口 誠悟

私は、フランスを中心に西洋演劇史を研究しています。授業では、台詞劇、ミュージカル、バレエ、オペラといった西洋で生まれた舞台芸術の魅力を、学生の皆様と分かち合えて行けたらと思っています。また仏語戯曲の翻訳家、さらにドラマトゥルク（演劇制作の文芸担当）として、演劇創造の現場で働いています。劇場で得た経験を活かし、「観る」だけでは見えない演劇作品を「作る」魅力、その面白さを授業で伝えたいです。また、浜松にはアクトシティ浜松をはじめ様々な劇場施設があり、日々新たな公演が生み出されていますが、そのような浜松の舞台芸術シーンに少しでも貢献できたらと願っています。

文化政策学部芸術文化学科 講師
西洋美術史
藪田 淳子

西洋美術史を専門にしています。これまで16世紀ドイツの風景画や宗教画について研究してきました。風景画が、なぜルネサンスの中心地イタリアではなく、辺境であったドイツで誕生したのかなどについてさらに探求していきたいと考えています。これまで美術館に勤めていましたので、日本の近代美術や、美術館と社会とのつながりについても興味があります。授業では、美術の豊かさやおもしろさを伝えて、皆さんといっしょに作品の意味や役割について考えていきたいと思います。

デザイン学部デザイン学科 准教授
プロダクトデザイン、デザインマネジメント、サステナビリティ
松江 幸子

製品・サービスの開発と、その製品がユーザーとの間に生み出すストーリーを構築し伝えること、そして企業におけるサステナビリティの推進に取り組んできました。
「デザイン」は近年ますます横断的で重要なツールとなり、「デザイナー」と呼ばれる人材に求められる能力も変化し続けています。この浜松の地で、学生や地域のみなさんと共に、社会課題に対峙し未来を豊かにするデザインを研究したいと考えています。

デザイン学部デザイン学科 講師
金工
古賀 真弥

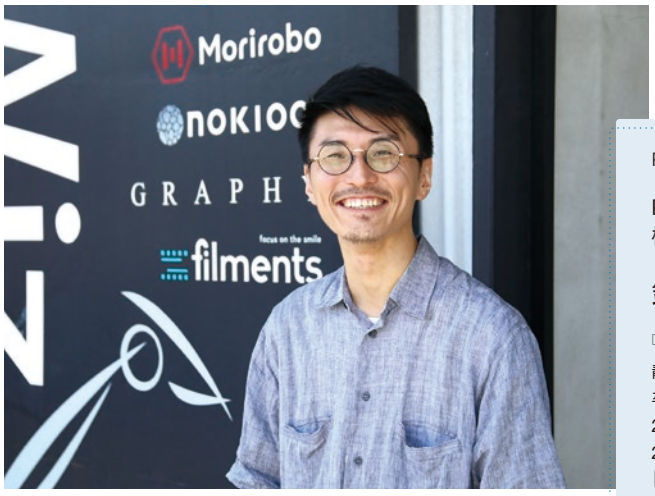
金属工芸を専門として、伝統技法や様々な手法を用いた作品の制作を通し、金属ならではの質感や色彩表現を活かした新たな表現方法の展開を目指して取り組んでいます。
選択肢が多様にある現代社会においても、自ら素材に触れながら手を動かして「つくる」ことから得られる経験は何にも代え難いものです。その中で、発見する・観察する・創造することの大切さを知ることは、この世界にあるものと成り立ちを学ぶことに繋がり、次世代のデザインを考えるきっかけや手掛かりになると感じております。
演習授業においては実演する姿を通してものづくりと向き合う姿勢を伝えていきたいと思います。

デザイン学部デザイン学科 特任助手
現代陶芸、日本画、イラストレーション
王 雪陽

私の学部時代の学科及び専攻は、インダストリアルデザインにおける日用陶磁器で、日本留学後は、陶芸における伝統工芸の学習と研究を行いました。博士課程在学中、WHO基準を満たした陶磁彩絵オリジナル技法である「疊彩」という技法を完成させ、現在もこの研究成果を自身の作品に使用しています。今後の教育と研究において、工芸とデザインの両方向性を維持しつつ、実用性と芸術性を融合し、絶えず現代陶芸の技術と材料の発展の可能性を探求しながら、学生と共に学習と研究を進める環境下において共に発展できればと考えています。

静岡文化芸術大学広報誌　碧い風 Vol.19　2024年10月1日発行　発行／公立大学法人静岡文化芸術大学

〒430-8533 静岡県浜松市中央区中央2-1-1
TEL.053-457-6111（代表）FAX.053-457-6123 https://www.suac.ac.jp/



SUAC'S OB
卒業生の活躍

PROFILE

PLANPOT DESIGN WORKS 代表 / ウェブデザイナー
株式会社NOKIOO ブランディングディレクター

鈴木（すずき）　力哉（りきや）さん

□ 2006年 デザイン学部技術造形学科 卒業

静岡県浜松市出身。2006年、デザイン学部技術造形学科卒業。ウェブサイト制作・ウェブコンサルティング会社を経て、2012年に「PLANPOT DESIGN WORKS」として独立。2013年からはデザイナー・オープンリソースプロジェクト「DORP」を設立し、地域におけるデザインへの認知・理解普及に取り組む。2024年4月より、ブランディングディレクターとして（株）NOKIOOに参画。個人事業と兼業しながら、クリエイティブから事業を推進する役割を担う。

「DORP」ウェブサイト ▸ https://www.dorp.jp/

ウェブから広がった自分の世界
デザイン視点を組織づくりに活かす

中学校の美術の授業でデッサンをスケッチブックに描く宿題があり、続けるうちにだんだん上達する実感を得たことをきっかけに、美術系の進路が視野に入るようになりました。それまで「好き」で描いていた絵を「上手」に描く方法を知って、ものの見方が変化していったのを覚えています。この経験を経て、美術を専門に学ぶ学科がある高校へ進学。とにかく絵をたくさん描いた高校生活でした。

高校生の時にMacを両親が買ってくれました。インターネットに繋いで世界中の情報を取得し、コミュニケーションがとれることに驚きましたし、ウェブサイト作成サービスを使って自分が書いた html がブラウザに表示される体験をしました。すべてが試行錯誤の中、分からないなりにネット上の交流掲示板に質問したことも。今では当たり前の世の中になりましたが、そうやって世界と繋がっていく感触がありました。美術系の国公立大学を進学先に考えていましたが、高校の先生から SUAC 推薦入試の打診があったとき、インターネットの世界にも興味が広がっていた私は、「地元から挑戦してみよう」と決意。無事合格することができました。当時の SUAC ではグラフィック系の授業は少なく、佐井国夫先生の授業は貴重な機会でした。出された課題に真剣に取り組み、佐井先生からの講評をもらった後は、ずっと問答していましたね（笑）。デザインに正解はありませんが、与えられた課題に対してより良いものを目指して繰り返す。この作業はデザインを考える素地になりました。長嶋洋一先生のプログラミング系の講義では、入学前の経験が役に立ちました。自分の得意を伸ばし、自分の得意に気付くきっかけになる講義だったと思います。得意と興味をさらに伸ばすため、3～4年次のゼミではユーザーインターフェース（UI）と映像を専攻。SUAC の先生方が私のやりたいことをベースにして導いてくれたと感謝しています。

卒業後は浜松市内のウェブ制作会社にデザイナーとして 6 年弱勤務。Flash の案件を多く手がけました。社内体制の変化をきっかけに独立。市内や近郊で活躍する SUAC 卒業生のつながりもあり仕事は順調に増える一方で、有志数人で地方都市のデザイナーの働き方を考える「DORP」を立ち上げ、現在までイベント開催や書籍発行などの活動をしてきました。

一方、自身の事業を運営していく中で感じていたのは、組織マネジメントやディレクションへの課題。さらにクライアントとのやり取りでは、デザイナーがプロジェクトを越えて双方のチーム構造や組織関係にも関わりながら事業に貢献したいと考えるようになりました。クライアントの日々と営みの中にデザインが良くなるヒントが埋まっているかもしれない。遠い存在になっているデザイナーをもっと近づけていきたい。そんな思いから参画したのが NOKIOO です。「ウェブを作る人」から組織の現場をデザインでより良くする人として次のステージに進んだばかり。きっとぶつかる壁も楽しみながら乗り越えたいと思います。

名古屋、東京からゲストを招いて開催されたデザインについて考える講演イベント「DORP INSPIRATION 2016」

編集後記

特集では設置から20年を経過した大学院を取り上げ、社会人大学院生の対談を行いました。社会人として業務を行いながら、自らの目標実現や課題解決のために、研究を深めている様子が印象的でした。本学大学院には、在職したままでキャリアアップを目指すことができるように長期履修制度を設けており、多様な学びのスタイルに応えています。

広報誌に対するご意見、ご感想をお待ちしています。第20号は2025年3月の発行予定です。